

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立原山台中学校
校長 三戸 聖子

中学校区におけるめざす子ども像
愛：「人とのつながりを大切にできる子ども」 学：「自ら考え、学び続けることのできる子ども」 健：「自分のよさを発揮することのできる子ども」

令和6年度 重点目標 ～新しい時代にむけて、子どものチャレンジを大切にしたい安心して学べる温もりのある学校～ ・探究的な学びの推進。個別最適な学びと協働的な学びの充実、単元別進度学習のための授業改善を進める。 ・子ども理解を深める支援体制の充実。多角的な視点で子どもに向き合い、子ども理解を深めるためにチーム（複数）担任制導入を進める。 ・子ども同士、大人との関わりを通し、自己存在感の向上と自己指導能力を育成する。
--

「確かな学び」の現状 令和5年度大阪府中学校チャレンジテストの結果において、府平均を大きく上回る学年、下回る学年と学年間の差が大きい。またチャレンジテストアンケート調査でも、「家で自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している」では、肯定回答と否定回答が半数ずつで、学びにむかう意識の差があることもわかる。しかし、授業ではどの子どもも落ち着いて学習に取り組むことができおり、学校自己診断アンケートでも80%の生徒が「授業を大切にしたいと学んでいる」と答えている。「自ら考え、学び続けることのできる子ども」を育成するために、学習内容と社会生活とのつながりを実感できる授業づくり等、新しい時代にむけて、子どものチャレンジを大切にしたい授業づくりを進めていく。	「豊かな心・健やかな体」の現状 令和5年度「学校自己診断アンケート」で90%の生徒が「時間を守って行動している」「友だちや先生にあいさつができる等」ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立している。しかし、不登校生徒数を減少させることが難しいことが課題。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実、「自己存在感の向上」のための工夫が必要である。多様な価値観をもつ生徒に多角的な視点で子どもに向き合うことで子ども理解を深め、子どもの可能性を伸ばす支援体制の充実を図る。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況（年度末）			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び（学）	授業改善	・探究的な学びにむけての授業改善と研修。子どもの学びの姿から学ぶ研修を進める。	★小中一貫教育の推進を目指した小中連携による授業づくり研修を実施する。	校内研修に関する肯定的な回答80%以上	職員アンケート	年度末	A 小中連携による各種研修を実施し、小中一貫教育の推進を図っている。	A	探究的な学びにむけての授業改善が進み、学校自己診断アンケートでは、学ぶ意欲が向上したことに対する肯定的回答が前年度より20P上昇した。今後は9年間の学びを見通した授業改善を進めていく。	A	探究的な学びの実現にむけて、日々の授業が実践されていてとても良い。また、それらの実践が子どもの学ぶ意欲にもつながっている。自由研究発表会も継続してほしい。
			●全教科において探究的な学びのスタイルを確立させる。	学ぶ意欲が向上したことに対する肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 自由研究発表会等、探究的な学びの推進を図っている。	A		A	
	学習のリズム	・一人1台パソコンの活用による家庭学習習慣を定着させる。	●週1回の一人1台パソコンを持ち帰っての家庭学習課題に取り組む。	家庭での学習時間が増えたことに対する肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	B 家庭学習課題の精選に工夫が必要。	B	学校自己診断アンケートでは、タブレットを活用した授業の工夫に関する肯定的回答が90%を超えた。しかし、一人1台パソコンを活用した家庭学習の定着については、課題が残残り、実践研修が必要である。	B	タブレットを効果的に活用して授業が行われていることがアンケート数値からもわかる。家庭でのタブレット学習の定着については、タブレットを使用することのみが目的とならないように進めてほしい。
			★一人1台パソコン活用による実践研修を実施し、小中間や各教科間の連携をはかる。		学校自己診断アンケート	年度末	A 一人1台パソコンを活用した授業実践から個別最適な学びへの工夫が確認できる。	A		A	
豊かな心（愛・健やかな体（健）	心のリズム	・「いのち」を考える人権総合学習の取り組みから自己有用感を高める。	●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくり。お互いを認め合える場面が見える活動、いじめを見逃さない教室環境づくりを行う。	「クラスでは自分の意見が言える場面がある」に対する肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 自己表現ができる授業づくり、自己有用感を感じる活動の工夫が確認できる。	A	自己表現ができる活動を取り入れた授業づくりが進み、学校自己診断アンケートでは、自分を表現できたりすることや人権を尊重すること、そして、いのちの大切さへの学びに関する肯定的回答が90%を得た。今後は生徒が主体的に活動できる場面から自己有用感を高める工夫を進めていく。	A	「いのちの授業」等、「いのち」について考える授業を行っていることは素晴らしい。子どもの自己有用感を高める取り組みを実践している。クラス等で自分の意見が言える場面が多くあることはよい。そのような環境だから、相互理解も深まっていく。
			●「いのちの授業」等実施することにより、「いのち」について考える取り組みを行う。	「人権を尊重する事、いのちの大切さ等について学んでいる」に対する肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 自分のよさや他者のよさを発見できる取り組みが確認できる。	A		A	
	生活のリズム	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実を図り、いじめ、不登校生を作らない学年・学級活動や生徒会活動の充実をはかる。	●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくりからお互いを認め合える場面、いじめを見逃さない教室環境をつくる。	「クラスでは自分を表現できる場面がある」「困ったときに相談できる友だちや先生がいる」に対する肯定的回答が80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 子どもたちが安心して過ごせる学年、学級活動の取り組みへの工夫が確認できる。	A	学校自己診断アンケートでは、クラスで自分を表現できる場面があることに関する肯定的回答が80%を超えた。また協働的な個別最適な学び等、教育活動の工夫に関する質問では90%以上の肯定的回答を得ることができた。今後は生徒会等、組織としての活動の強化を図る。	A	集団生活の中で、協働的な学びが充実されていると思う。同時に、子どもの「個別」な成長もめざしていることがいろいろな取り組みの中で感じられる。子どもたちそれぞれの可能性を伸ばす授業の工夫や支援体制の充実を今後も継続してほしい。
			●各学年2クラスを生かした「たてのつながり」からの取り組みの充実をはかる。	「各行事で、縦割りの取り組みや異学年と交流できてよかった」に対する肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 2クラスを活かした「たてのつながり」から「生徒の主体的な活動」が確認できる。	A		A	
	見せる学校（信）	・学校の情報を正確かつ適切に発信し信頼される学校づくりを行う ・地域活動への参加による信頼される学校づくり。	●teroruとHPと各通信による情報発信を確実にし、情報提供を行う。	「ホームページやteroru等で家庭への連絡を適切に行っている」に対する肯定的回答90%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A HPとteroruによる情報発信を積極的に行っている。	A	学校自己診断アンケートでは、HPやteroru、学校だよりや学年通信等で家庭への連絡を適切に行っていることに関する肯定的回答が85%を超えた。今後は保護者だけでなく地域への発信も工夫し、信頼される学校づくりを目指す。	A	地域との関りをとても大切にしてきている。中学校と地域とがつながれる場面を多く計画している。中学生と地域が広く関わることがうれしく、将来が明るく感じられる。情報発信は積極的に行っていて、地域としても安心感がある。
			●原山まつり、清掃活動等の地域活動への生徒の積極的な参加を推進する。	「地域の活動に積極的に参加している」肯定的回答80%以上	学校自己診断アンケート	年度末	A 地域活動への生徒の積極的な参加を行っている。	A		A	

校長より（年度末）探究的な学びの推進、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指した授業改善を進めることで、他者と折り合いをつけながら学習を進めていく子どもの姿に変容が認められた。仲間を尊重しながら自分の意見が言える場面が学びの中に見えたこと、また学ぶ意欲の向上が確認できたことは、今年度の重点目標「子どものチャレンジを大切にしたい、安心して学べる温もりのある学校」に近づいたと考える。今後、探究的な学びをさらに進めるためには、今年度取り組んだ自由研究発表会だけではなく、各教科ごとの探究課題からの学びを進め、総合的な学習の向上を目指す。	学校関係者評価者から（年度末）子どもがお互いを尊重しながら落ち着いて授業に臨んでいる。子どもたちの心に寄り添った教育がなされている。子ども一人ひとりが自信をもって将来を歩んでいく力を育むための教育活動が工夫されていることが評価できる。
--	---